

コロナ禍でのGL事業

校長 和田 真志

5年間のSGH（スーパーグローバルハイスクール）事業に続き、同じく文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のグローバル型の指定を受け、今年度で2年目。この2事業において、本校で継続実施されているGL事業による「グローバル人材の育成」が推進され、愛媛県を代表する地域の伝統校として、文武両道、質実剛健を校風とする本校に、強力な武器となる新たな「軸」が着実に根付いてきました。

前事業から7年にわたって国の事業予算を活用しながら、モデル校として全国に胸を張れる成果を上げることができたのは、何よりも好奇心や探究心が強く、突破力のある優秀な生徒の皆さんの力であり、その生徒たちを陰に日向にご指導くださった運営指導委員諸氏のお力添えも大いなる支えとなりました。そしてそれらをうまく調整しながら、生徒たちの成長にしっかりと結び付け、後押ししてきた教職員の並々ならぬ熱意がございました。

その事業も来年度までの予定であり、「地域との協働」事業については、何らかの取りまとめが求められている矢先に、新型コロナウイルス感染症によって、状況は一変しました。青天の霹靂であった全国一斉臨時休業のための自宅待機。これまで通常であると認識していた教育活動について、根本から見直さなければならないという混乱の中で、当面の授業をはじめとした学習活動の回復を図りつつ、これまで積み上げてきた海外フィールドワークや海外修学旅行、市内フィールドワークもやむなく中止となり、海外語学研修や県内企業フィールドワークについても大きな見直しを迫られることとなりました。

そのような中、SGH部では、インターナショナルデーや中四国高校生会議をオンラインで実現し、SDGsに係る市内高校生交流会も、コロナの感染状況に応じて、感染症対策を万全にして開催にこぎつけました。中止を余儀なくされた海外への渡航はオンライン交流で代替するなど、オンラインの良さを見出しながら、新たな境地での学びを実現しました。若い力は、逆境に対して失望しあきらめるのではなく、どうやったら道が切り拓けるかという乗り越えるべき壁として向かい合い、思いもかけない発見や成果をもたらしてくれました。

来年度につきましても、コロナの状況を見ながら、可能であれば、海外にも訪れ、そうでない場合でも今年度のオンライン経験を発展的に継承しながら、事業内容の成果追求を行いたいと考えております。このように、年月も重ね、工夫も凝らしながら紡いできた事業ではありますが、来年度で国による牽引は終了し、その先は、自力飛行により推進することとなるわけです。

これまでの7年間、がむしゃらに進んでいくことができたのは、モデル校としての役割を果たそうという責任感と、経済的な面や国事業という看板をいただくという支援があったという点は否めないことだと思います。おかげで天空高く舞い上がった東高の新しい「軸」ではありますが、推進力が加わらなければ、ライダーのように当面滑空はできましようが、徐々に高度が下がり、再び上昇することは叶わないでしょう。策を講じなければ、あっという間に失速することは自明です。そこで、現在のところではありますが、財源の確保や新学習指導要領における教育課程の特例申請、そして、ウィズコロナ時代にふさわしい学びの在り方を模索しているところであります。

本校のディプロマ・ポリシーにもある「輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、グローバル社会で活躍できる人材」を育成するために、またこういった人材を目指す生徒たちのために、歩みを止めることなく、新たな局面に立ち向かう覚悟でございます。

つきましては、これまでも課題研究等で多大なお力添えをいただいた愛媛大学はじめ多くの先生方、愛媛県及び松山市の職員の方々、講演会などにご協力いただいた県内企業の皆様に、心よりの感謝を申し上げつつ、引き続いてのご支援をお願い申し上げます。巻頭の挨拶といたします。

■第1部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究完了報告	1
■第2部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発の成果と課題	9
I	アンケートからみる本年度の成果	10
II	令和2年度のGL事業課の自己評価	19
III	次年度以降への課題	24
■第3部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発報告書	25
第1章	令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想	26
I	研究開発構想調書の概要	26
II	研究開発 取組内容の概要	28
III	研究開発 ビジュアル資料	32
IV	グローバル明教 ビジュアル資料	33
第2章	令和2年度研究開発組織の概要	34
第3章	令和2年度の実施詳細	35
I	1年生の取組 (本年度対象:360人)	35
1	各種講演及びワークショップ【G明教I・G明教II】	35
2	海外フィールドワーク代替交流【G明教I】	48
3	課題研究【G明教II】	51
4	内容言語統合型学習 (E a s t C L I L)【坊っちゃんタイム】	60
II	2年生の取組 (本年度対象:80人 (GLコース選択生))	61
1	課題研究【G明教III】	61
2	海外フィールドワーク代替交流【G明教III】	68
3	内容言語統合型学習 (E a s t C L I L)【坊っちゃんタイム】	69
4	保健講座	70
5	講演	72
III	留学	73
1	本校の留学促進にむけた取組	73
2	留学生の受け入れ	74
IV	成果の普及	75
1	1・2年生合同中間報告会	76
2	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	78
3	令和2年度研究成果発表会	78
V	学校環境のグローバル化	86
1	SGH部の活動	86
2	各種交流	86
3	各種大会参加・入賞	87
4	市内高校生会議	87
5	第5回中四国高校生会議	88
VI	コンソーシアムにおける取組	93
1	各種取組	93
2	コンソーシアム 会議議事録	94
VI	その他の取組	97
1	松山東高等学校グローバル人材育成振興会	97
2	運営指導委員会 議事録	98
■第4部■	関係資料	102

第 1 部

令和 2 年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発完了報告

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 田所 竜二 印

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日）～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立松山東高等学校
学校長名 和田 真志
類型 グローカル型

3 研究開発名

東高がんばっていきましょいーグローバルからグローカルへの挑戦ー

4 研究開発概要

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究（以下「地域課題研究」）を中心とした教育課程の研究開発

(1) グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローバル明教】

本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力のもと協働的研究を行い、資質・能力を伸ばす。

(2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けた語学力を育成する実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。

イ 内容言語統合型学習（E a s t C L I L）を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

(3) 学校環境のグローバル化

ア SGH部の活用

イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進

ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

エ 県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流

オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携

カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成

(4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催

エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催
オ 他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

○適用範囲：第1学年全生徒

教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位）

○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース

教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位）

「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
井上 敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター センター長	委員長
佐伯三麻子	松山東雲女子大学 教授	副委員長
金村 俊治	坊っちゃん劇場 支配人	
菅 紀子	(有)クラパムコモンカンパニー 代表	
寺村 尚起	三浦教育振興財団 監事	
近藤 実	松山南高等学校 校長	
高岡 伸夫	松山市総合政策部 地方創生戦略推進官	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機関の代表者	
松山市教育委員会生涯学習政策課	課 長	西村 秀典
松山市総合政策部企画戦略課	課 長	田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長	徐 祝旗
松山大学人文学部	学部長	櫻井啓一郎
いよぎん地域経済研究センター	社 長	重松 栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員	山本 司
常盤同郷会	理事長	山崎 薫
愛媛県社会福祉事業団	前理事長	仙波 隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課 長	島瀬 省吾
愛媛県立松山東高等学校	校 長	和田 真志

8 カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	非常勤職員
地域協働学習実施支援員	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	非常勤職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム				○								○
カリキュラム開発等専門家							○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会				○								○

(2) 実績の説明

ア カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

(ア) カリキュラム開発等専門家

氏名：梶原 春菜（元京都大学法学研究科助教、5年間の本校SGH特別非常勤講師、昨年度1月より海外交流アドバイザーとして勤務）
（非常勤職員として雇用）月4回本校で勤務

(イ) 地域協働学習実施支援員

氏名：嶋村 美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、5年間の本校SGH特別非常勤講師「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当）
（非常勤職員として雇用）月5回本校で勤務

イ 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(ア) 職員体制に関する支援

海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置、GL担当教員のための教員の加配（常勤講師1人）、（外国語指導助手専任）の配置（1人）

(イ) 取組内容に関する支援

ALTの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）、生徒のディベート力の向上支援（英語ディベートコンテスト開催事業費）、生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）※今年度は中止、研究に係る費用を優先して令達

(ウ) 関係機関との連絡調整等

高大連携プログラム等を円滑に実施するための大学及び企業等との連携支援、海外FWにおける現地との交渉の支援

(エ) 運営に関する支援

運営指導委員会の開催年2回実施（7月17日、3月4日）、コンソーシアムの開催年2回実施（7月17日、3月4日）、えひめスーパーハイスクールコンソーシアムの開催（発表と意見交換）

(オ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

コンソーシアムの継続、海外交流の支援、教職員への支援などを行う。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア グローカル明教		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ 坊っちゃんタイム		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ 学校環境のグローバル化		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ コンソーシアムの構築		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明 ※第1学年全生徒：360人 第2学年GLコース生：80人

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】

a グローカル明教I 対象：第1学年全生徒

(a) アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、秋山兄弟生誕地等の史跡でフィールドワークをするなど、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「これからのよのなかの話しよう」

【変更】緊急事態宣言等による休校措置及び分散登校実施のために、市内FW（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）は中止。

(b) アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導のもと、いよぎん地域経済研究センターの協力により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について探究学習を行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを交えて実施し、フィールドワーク報告会により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。さらに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有する。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「企業の見方&地域製品のマーケティング」

・県内企業フィールドワーク代替講演（三浦工業、アテックス）

- ・海外フィールドワーク代替交流（台湾三浦工業、台湾国立中興大学附属高級中学、三浦工業（中国）、北京月壇中学、フィリピン大学附属高校）

【変更】新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演会はすべてオンラインで実施。

また、県内企業フィールドワーク及び海外フィールドワークは中止とし、オンラインでの講演や交流会を代替として実施。

- b グローカル明教Ⅱ 地域及び世界の持続的な発展のために 対象：第1学年全生徒

【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローバル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。

【内容】講演及び課題研究、発表会

- ・「地域社会の持続可能な発展に向けて～今、なぜグローバル人材が求められるのか～」「世界共通のゴール『SDG s』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま まちかど講座」
- ・課題研究 20 テーマ 24 時間実施 本校教員が指導 研究成果発表会（3月）

- c グローカル明教Ⅲ グローカル課題への取組 対象：第2学年GLコース生対象

【目的】高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためグローバルコースを設定し、課題研究の深化を図る。地方創生のための課題研究を通して、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。

【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会

- ・課題研究 13 テーマ 48 時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学准教授
- ・発表会 1・2年合同中間報告会（12月）及び研究成果発表会（3月）

- (イ) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

第1学年は全生徒を対象とし、各学期2科目（各1テーマ）で実施、全6テーマ

第2学年は、GLコース生のみを対象とする予定であったが、英語科でオンライン英会話の取組を行うこともあり、全生徒を対象に行った。オンライン英会話の設定されたテーマに基づいて、関連した内容を英字新聞やインターネット上の動画などから教材化して行った。

- (ウ) 学校環境のグローバル化

- a SGH部の活動 39人

グローバル・リーダーとしての資質・能力の伸長の加速化を目標とし、校内啓発活動、国際協力・交流活動に取り組み、その成果を様々な機会に報告している。

- (a) 校内啓発活動

インターナショナルデー（国際交流）、市内高校生交流会・勉強会（SDG s勉強会）、NGO えひめグローバルネットワークとのフェアトレードの啓発活動

- (b) 国際協力・国際交流活動

アメリカトリーパインズ高校とのオンライン交流、ハワイHBA高校とのオンライン交流、ビデオレターの制作（ウガンダ・シンガポール・台湾・フィリピン・アメリカ・中国）

- (c) 対外的コンテスト・大会への参加

全国教育模擬国連大会・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会・「えひめ教育の日」推進大会・「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」・「ロシア日本語履修高校生オンライン交流プログラム」他

- b その他の取組

- (a) 海外修学旅行等による体験型研修促進

本年度も、アメリカ（ロサンゼルス）及び、シンガポール・マレーシアの修学旅行を計画し、約2/3の生徒が在学中に海外を体験できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止となった。台湾・中国・フィリピンへのフィールドワークも中止となり、代替活動としてオンライン交流を行った。オーストラリアでの語学研修も中止としたが、新たにオンラインでの語学研修を宇和島南中等教育学校と協力して3月に実施した。

- (b) 留学生の受入れおよび留学の促進

本年度はアジア高校生架け橋事業による留学生を1名と一般の留学生1名を引き受けた。ま

た、来年度に向けて、本校生の留学の促進のために「トビタテ!留学 JAPAN」の説明会を実施した。

(c) 海外高校生との交流

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため本校に迎えることができなかったが、課題研究やフィールドワークの代替活動や部活動でオンラインを使ってたくさんの海外高校生との交流を実施することでできた。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 第1学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

松山市シティープロモーション課による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま まちかど講座」を利用しての各政策担当者による講義、地域活性化に取り組んでいる愛媛大学や学習院大学の教授や元地域まちおこし協力隊員からの講演。

(イ) 第2学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課の職員、元大学准教授の指導による探究的な活動である課題研究を実施。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

第1学年でのグローバル明教の課題研究においては、本年度から本校教員が課題研究テーマを設定し、その中から生徒がグループでテーマを決定し課題研究に取り組んでいる。全教科の教員が参加することによって、それぞれの得意の分野と地域課題を連携させながら課題研究に取り組んでいる。

また、East CLILでは、英語科と各教科が連携し、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図っている。

エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラムの作成については、本校の校務分掌では、グローバル事業課（以下GL事業課）と教務課において作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会を年3回開催し、内容を検討しながら運営している。

オ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付け）

全校体制で本事業は推進するが、中心となって本事業を運営する校務分掌として、GL事業課を設置している。本課に所属する教員は、計画立案、本事業の円滑な実施、考察、事業計画の改善を図っている。課題研究は、課題研究チームをつくり、GL事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習支援員が協働して活動し、学年団が担当する課題研究の外部機関との連絡・交渉、研究内容についての支援を行っている。また、海外交流事業は、海外交流チームをつくり、GL事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家が協働して、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、英語科と協働して行う海外留学の促進事業や留学生受入事業を行っている。

カ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業におけるそれぞれの内容については、GL事業担当者が具体的な案を立案し、校長決裁を受けたものを、職員会議にて全教職員で共通理解を図りながら推進している。成果の検証・評価については、以下のように行っている。講演については、その都度生徒へのアンケートを行い、内容についての検討と次年度の内容の検討を行う。課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行うとともに、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図る。

キ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成を目指して、コンソーシアムの産官学それぞれの立場からの指導助言を受けている。松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺うことで、生徒への意識付けに繋がっている。本年度は、新たに松山市主催で「未来のふる里産業人養成講座」を実施し、本校OBの方や産業界で活躍されている方による講演により、新たな知見を得ることができた。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローバルなのか」や「今なぜSDGsなのか」などの根本的な知識や理論を学ぶことで、生徒の思考力や判断力の向上に繋がっている。さらに、各企業からはグローバルに対する取組や、社会貢献の在り方について学ぶ機会を得ている。

ク 類型毎の趣旨に応じた取組について

本校指定のグローバル型においては、グローバルな視点の育成と郷土の課題の解決に貢献できる人材の

育成を目指している。

グローバルな視点の育成のために企画していた多くの内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止となった。しかし、その中で駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」を昨年度に引き続き実施した。また、海外フィールドワーク参加予定者には、現地企業や交流予定校とのオンラインでの交流を行った。さらに、ほぼ毎月実施しているSGH部主催のインターナショナルデーには、県内在住の留学生や外国人を招いて交流を行うなど、グローバルな視点の育成に努めることができた。

また、郷土の課題解決に向けては、本年度も松山市の全面的な協力をいただいた。総合政策課を中心に、探究的な学習における講演や講座の開設、課題研究における講師派遣を受けた。来年度は、松山市選挙管理委員会からの講師派遣も決定した。愛媛大学や松山大学との連携についても、昨年度までと同様に課題研究での指導や講演などに協力を得ることができ、生徒の高いレベルでの知的好奇心を喚起することに繋げることができている。

ケ 成果の普及方法・実績について

本年度の活動内容については、適宜本校ホームページで発信している。12月には1・2年生合同中間報告会を実施し、課題研究指導者及び本校生徒保護者のみではあっても公開した。また、3月には本校で研究成果発表会を、参加者を県内中高関係者に増やして公開して実施した。さらに、愛媛県教育委員会が主催する「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」で活動内容をオンラインで報告した。

SGH部が主催して昨年に行っている市内高校生会議を本年度からは、定期的に開催し、市内高校生に成果の普及を図っている。

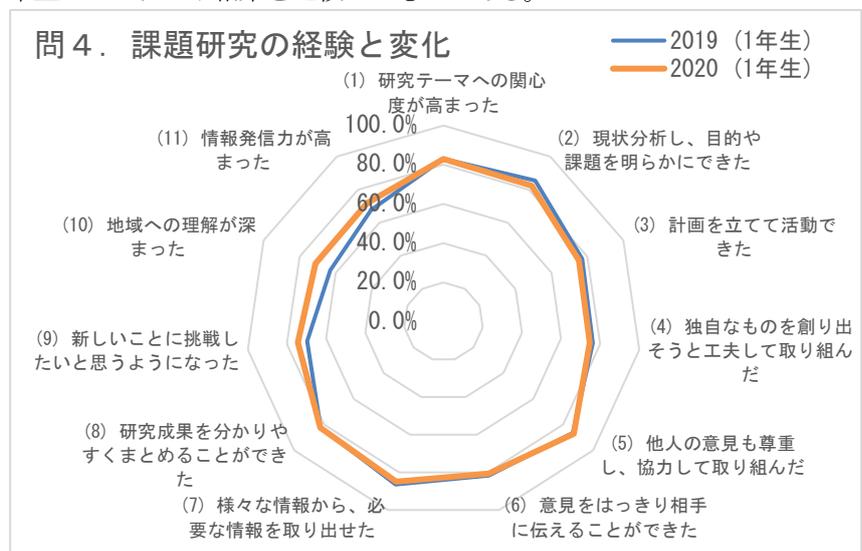
11 目標の進捗状況、成果、評価

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初の計画通りには実施できなかったものの、オンラインでの取組と、各関係機関が臨機応変に対応して下さったことにより、多くの事業を実施することができた。

1年生では、コンソーシアムの一員である愛媛大学や松山市の協力のもと、講演会や講座を実施し、グローバルな視点の育成や地域理解に繋げる取組を行った。それにより、思考力や判断力の育成及び、地域や世界の現状や課題について理解を深めることができ、昨年と同様に生徒の自己評価は高くなっている。県内企業フィールドワークや海外フィールドワークは中止となったが、オンラインによる代替の講演や交流を行った。地元企業のグローバル化への取組と地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学んだり、現地の高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行ったりすることで、語学力、コミュニケーション力の必要性などを学ぶことができた。7月から実施している課題研究では、本事業終了後の持続性を考え、本校教員の主導による研究活動を行っている。各教員の得意な分野を生かしながら、生徒の幅広い興味・関心に対応できるテーマを設定し実施することができた。指導体制の変更にも関わらず、各教員の工夫と協力により、生徒たちは意欲的に課題研究を行うことができた。これは、1年間の課題研究実施後の生徒の興味や関心から確認できる。下图は、今年度の1年生と昨年度の1年生のアンケート結果を比較したものである。

課題研究活動を通じた成果として、今年度の1年生は、情報の収集・分析力(2)(7)、成果の表現力(4)(8)、協働による研究活動の実行力(5)(6)を挙げる割合が高く、昨年度の1年生と同程度の水準であった。さらに、地域への理解(10)や、新しいことに挑戦したいという意欲(9)は、昨年度の割合を上回る結果となっている。このように、本校教員によって行われた課題研究は事業目的に照らして想定以上の成果を生み出しており、本事業終了後を見据えた課題研究の持続的な指導體制の構築が可能になってきている。

2年生では、GLコースを設定し、研究意欲の高い生徒80名を対象に、高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を実施することにより、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課



題発見力や問題解決能力・コミュニケーション力等の育成を図ることができた。GLコース生3名が自主的に取り組んだ観光甲子園2020では、訪日観光部門で準グランプリを受賞した。これは、G明教で取り組んだSDGsの内容を取り込んだものであり、課題研究の取組が作品作りにも大きく貢献しており、学習内容が定着してきている。

昨年度は休校措置により発表会を実施できなかったが、感染防止策をした上で、12月に2年生GLコース中心のポスター発表による報告会を、3月には1年生によるポスター発表、2年生によるシンポジウムを開催することができた。ポスター作成やプレゼンテーション作成を通じた学びに加えて、ディスカッションによる学びを得た生徒が多く、思考力や表現力を含めたプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上につながっており、実施の意義は大きかった。

学校環境のグローバル化においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、昨年度のような交流の機会は確保できなかったものの、SGH部を中心にしてオンラインでの交流や県内留学生を招待しての交流など、限られた条件の中で可能な取組を積極的に行った。昨年度から実施している市内高校生会議は、参加校、参加人数ともに増加し、ともに研究・協議していく仲間作りができており、本校の取組の普及にもつながっている。

昨年度の課題であったコンソーシアムとの協働体制は、松山市との連携講座の開設や、講演会の講師の斡旋、来年度2年生の課題研究講師協力など、より強固なネットワークの構築に繋げることができた。

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

本年度から事業終了後の継続も考え、1年生の課題研究について本校教員が指導を行ってきた。課題研究チームが研究の流れについて道筋を示し、運営・実施は各担当教員が自由に実施できるようにしたため、幅広いテーマでの課題研究が実施できた。しかし、フィールドワークや外部講師を積極的に活用した講座がある一方で、調べ学習に終わった講座もあるなど、取組での差が見られた。GL事業課としての情報提供が十分ではなかったため、各講座で行われた内容を分析し、より良い課題研究ができるように、地域協働学習実施支援員と協力して運営方法を改善していく。また、第2回コンソーシアムで指摘された研究内容の発展的な積み上げを目指して、3年生が2年生を指導するシステムも検討していく。

2年生のGLコースは、本年度80名の定員を設けて実施した。生徒の学習意欲や知的好奇心も高く、GLコースを希望する生徒が多いため、来年度の2年生のGLコースは、コンソーシアムの協力による新たな講座の開設によって、定員を97名まで増やすことができた。しかし、すべての希望者には対応できておらず、事業終了後を見据えては、希望者全員が受講できるような体制づくりを検討していく。そのためには、外部講師にとって負担感の大きい論文作成についての方法を改善していく。

3年生は、論文作成となるが、研究内容を外部に発信することと、生徒一人一人の進路実現に繋げていく取組をしていく。また、3年生と2年生が一部同じ時間で活動するため、3年生が2年生に対して指導できる方法について模索していき、継続した研究ができるような仕組み作りを行っていく。

学校環境のグローバル化について、本年度は海外フィールドワークや現地での語学研修などが実施できなかった。生徒の感想にも、「現地を訪問して交流をしたかった」というものが多かった。SGH事業より取り組んできた海外研修を今後も継続できるように、時期や内容を検討し、可能な限り実施できるように努めていく。また、本年度と状況が変わらない場合には、本年度以上にオンラインを有効に活用し、事前や事後学習を含めて効果が上がるように研究を重ねていく。

本校では、SGH事業指定中に、同窓会が中心となり「松山東高校グローバル人材育成振興会」が結成され、海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への助成、学会や研究会で発表する生徒等への助成、講演会等実施時の講師旅費・謝金、課題研究に必要な書籍等の購入、教育活動に役立つICT機器の整備等において支援を受けている。SGH事業から本事業まで、カリキュラムとしては成熟し、事業が円滑に進んでおり、これらの事業で培ってきたものを継続するためには、活動費の確保は急務である。管理機関である愛媛県の支援をお願いするのはもちろんのこと、本校独自の振興会からの今まで以上の支援が必要になる。そのためには、本校が現在行っている様々な取組について、ホームページ上や新聞・TV等だけではなく、SNS等を通じて情報発信を行う体制づくりを行っていき、本事業終了後も本取組を継続して実施できるような活動費の確保に努めていく必要がある。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	089-912-2954
氏名	近藤 啓司	FAX	089-912-2949
職名	指導主事	e-mail	kondou-keiji@pref.ehime.lg.jp

第2部

令和2年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発の成果と課題

I アンケートからみる本年度の成果

1 アンケート結果

今年度、アンケート調査を1・2年生の生徒・保護者全員に実施し集計した。実施時期は2月である。

(1) 生徒

1. 次のことがらについて、あなたの興味のあることを教えてください。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない	強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	9.7%	47.4%	33.0%	9.9%	5.9%	42.7%	41.8%	9.6%
	2年GL	7.5%	48.8%	35.0%	8.8%				
	GL以外	5.9%	36.7%	42.2%	15.2%				
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	18.5%	42.3%	32.4%	6.8%	11.6%	47.5%	34.2%	6.8%
	2年GL	21.3%	53.8%	22.5%	2.5%				
	GL以外	7.8%	34.8%	45.6%	11.9%				
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	29.8%	47.7%	18.5%	4.0%	28.0%	52.0%	15.3%	4.8%
	2年GL	43.8%	45.0%	10.0%	1.3%				
	GL以外	23.0%	45.9%	23.7%	7.4%				
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	30.7%	43.2%	21.6%	4.5%	26.6%	46.3%	21.8%	5.4%
	2年GL	50.0%	41.3%	7.5%	1.3%				
	GL以外	18.5%	44.8%	30.4%	6.3%				
(5) 地域の魅力と課題	1年	16.8%	46.3%	30.1%	6.8%	16.9%	46.6%	30.5%	5.9%
	2年GL	40.0%	45.0%	15.0%	0.0%				
	GL以外	11.9%	40.7%	37.0%	10.4%				
(6) 地域の活性化	1年	20.5%	46.9%	27.0%	5.7%	17.6%	50.1%	26.9%	5.4%
	2年GL	36.3%	48.8%	13.8%	1.3%				
	GL以外	12.6%	43.9%	32.7%	10.8%				

2. 次の力が、自分にどの程度あると思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高校の魅力を説明する力	1年	9.9%	42.0%	40.3%	7.7%	4.5%	49.7%	38.1%	7.6%
	2年GL	11.3%	57.5%	26.3%	5.0%				
	GL以外	6.3%	41.3%	43.5%	8.9%				
(2) 愛媛県(地域)の魅力を発信する力	1年	10.8%	40.3%	42.0%	6.8%	6.2%	37.9%	49.4%	6.5%
	2年GL	15.0%	46.3%	37.5%	1.3%				
	GL以外	5.9%	30.4%	53.7%	10.0%				
(3) 地域の課題についての理解	1年	9.9%	41.5%	40.9%	7.7%	7.6%	38.1%	47.5%	6.8%
	2年GL	11.3%	48.8%	38.8%	1.3%				
	GL以外	3.3%	31.5%	54.8%	10.4%				
(4) グローバルな課題についての理解	1年	13.6%	43.5%	35.5%	7.4%	8.8%	42.4%	42.4%	6.5%
	2年GL	10.1%	54.4%	35.4%	0.0%				
	GL以外	5.6%	32.3%	52.4%	9.7%				
(5) 持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	10.2%	42.9%	39.8%	7.1%	8.8%	39.4%	43.9%	7.9%
	2年GL	15.2%	38.0%	44.3%	2.5%				
	GL以外	4.5%	35.3%	51.3%	8.9%				
(6) リーダーシップ・調整力	1年	10.5%	35.2%	40.6%	13.6%	7.4%	32.9%	47.0%	12.7%
	2年GL	11.3%	45.0%	35.0%	8.8%				
	GL以外	5.2%	28.5%	49.3%	17.0%				
(7) 世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	9.1%	29.3%	46.9%	14.8%	8.2%	24.0%	48.3%	19.5%
	2年GL	11.3%	28.8%	52.5%	7.5%				
	GL以外	5.9%	21.5%	50.4%	22.2%				
(8) 英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	8.8%	19.0%	45.2%	27.0%	5.4%	13.8%	51.1%	29.7%
	2年GL	11.3%	15.0%	48.8%	25.0%				
	GL以外	4.8%	14.4%	48.5%	32.2%				
(9) 異文化理解力	1年	21.6%	54.3%	21.3%	2.8%	16.4%	55.1%	25.7%	2.8%
	2年GL	22.5%	61.3%	15.0%	1.3%				
	GL以外	19.3%	45.2%	30.0%	5.6%				
(10) 批判的思考力	1年	21.3%	46.6%	29.5%	2.6%	13.6%	56.3%	27.0%	3.1%
	2年GL	26.3%	38.8%	32.5%	2.5%				
	GL以外	15.2%	45.6%	36.3%	3.0%				

3. あなたの現在や将来に関する次の問いについてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したい。	1年	22.7%	43.5%	26.7%	7.1%	20.1%	50.8%	23.4%	5.6%
		2年GL	30.0%	45.0%	22.5%	2.5%				
		GL以外	11.9%	44.4%	39.2%	4.5%				
(2)	地域の魅力を、国内や国外に発信したい。	1年	21.3%	37.2%	34.9%	6.5%	14.7%	42.4%	35.9%	7.1%
		2年GL	27.5%	47.5%	25.0%	0.0%				
		GL以外	8.2%	33.6%	49.3%	9.0%				
(3)	留学や海外の大学への進学を考えている。	1年	13.9%	16.2%	34.7%	35.2%	13.0%	20.9%	30.5%	35.6%
		2年GL	23.8%	28.8%	32.5%	15.0%				
		GL以外	6.3%	19.0%	35.8%	38.8%				
(4)	国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい。	1年	10.5%	23.6%	44.0%	21.9%	5.9%	20.9%	46.9%	26.3%
		2年GL	10.0%	25.0%	43.8%	21.3%				
		GL以外	4.9%	15.7%	48.9%	30.6%				
(5)	将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい。	1年	14.0%	31.3%	39.0%	15.7%	11.3%	28.5%	43.8%	16.4%
		2年GL	18.8%	41.3%	35.0%	5.0%				
		GL以外	4.1%	25.0%	54.5%	16.4%				
(6)	将来、地元で就職したい、または起業したい。	1年	11.9%	27.0%	36.6%	24.4%	8.6%	26.8%	46.7%	17.9%
		2年GL	17.5%	21.3%	40.0%	21.3%				
		GL以外	8.2%	24.6%	44.4%	22.8%				
(7)	将来、どこに暮らしていても地元のために貢献したい。	1年	22.2%	39.2%	27.3%	11.4%	15.0%	37.6%	33.1%	14.4%
		2年GL	23.8%	47.5%	22.5%	6.3%				
		GL以外	9.3%	37.7%	41.0%	11.9%				
(8)	英語力を高めたいと思いますか。	1年	73.9%	21.9%	4.0%	0.3%	67.5%	22.0%	7.9%	2.5%
		2年GL	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%				
		GL以外	51.9%	33.2%	12.7%	2.2%				
(9)	将来、英語力は必要だと思いますか。	1年	79.5%	15.9%	3.4%	1.1%	73.7%	20.3%	4.5%	1.4%
		2年GL	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%				
		GL以外	54.9%	31.0%	12.3%	1.9%				

4. グローカル明教（課題研究）での取組について、次の問いのあなたの経験や変化についてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	研究テーマへの関心度が高まった。	1年	40.9%	42.0%	13.4%	3.7%	39.8%	43.2%	11.9%	5.1%
		2年GL	61.3%	33.8%	3.8%	1.3%				
(2)	現状分析し、目的や課題を明らかにすることができた。	1年	32.7%	49.7%	14.2%	3.4%	30.5%	55.1%	11.9%	2.5%
		2年GL	38.8%	51.3%	8.8%	1.3%				
(3)	計画を立て活動することができた。	1年	30.7%	44.6%	21.0%	3.7%	23.7%	53.4%	17.8%	5.1%
		2年GL	27.5%	47.5%	20.0%	5.0%				
(4)	独自のものを創り出そうと、工夫して取り組むことができた。	1年	30.1%	44.6%	21.6%	3.7%	28.2%	48.0%	19.5%	4.2%
		2年GL	36.3%	38.8%	23.8%	1.3%				
(5)	他人の意見も尊重し、協力して取り組むことができた。	1年	47.4%	39.8%	10.2%	2.6%	44.4%	42.1%	10.5%	3.1%
		2年GL	52.5%	38.8%	7.5%	1.3%				
(6)	自分の意見をはっきり相手に伝えることができた。	1年	41.8%	38.9%	16.8%	2.6%	29.9%	51.7%	15.5%	2.8%
		2年GL	42.5%	46.3%	10.0%	1.3%				
(7)	様々な情報の中から、必要な情報を取り出すことができた。	1年	35.2%	49.7%	12.2%	2.8%	27.4%	59.0%	11.6%	2.0%
		2年GL	43.8%	46.3%	8.8%	1.3%				
(8)	研究成果を分かりやすくまとめることができた。	1年	28.1%	54.3%	14.5%	3.1%	29.7%	52.5%	16.1%	1.7%
		2年GL	35.0%	53.8%	11.3%	0.0%				
(9)	新しいことに挑戦したいと思うようになった。	1年	34.7%	39.8%	19.9%	5.7%	27.2%	42.5%	24.4%	5.9%
		2年GL	50.0%	32.5%	15.0%	2.5%				
(10)	地域への理解が深まった。	1年	29.5%	41.8%	19.6%	9.1%	21.2%	41.8%	28.0%	9.0%
		2年GL	36.3%	30.0%	22.5%	11.3%				
(11)	情報発信力が高まった。	1年	24.2%	47.6%	22.5%	5.7%	17.2%	50.6%	25.7%	6.5%
		2年GL	30.0%	40.0%	26.3%	3.8%				

5. グローカル明教での学習が、あなたの高校生活に与えた影響についてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	進路選択や目標設定が明確になった。	1年	13%	35%	37%	15%	9.0%	26.6%	42.7%	21.8%
		2年GL	25%	44%	25%	5%				
(2)	他の教科の学習に役立った。	1年	12%	31%	40%	17%	7.9%	30.8%	41.0%	20.3%
		2年GL	16%	32%	48%	4%				

自由記述より

<1年生>

- ・「世界に出たい」という一心で、今まではグローバル化に伴うことしか勉強してこなかったが、身近なところにもそれにつながるようなことがたくさんあった。広い視野を持つのはもちろん大切だが、それと同時に自分の身の回りに目を配ることも大切だと分かった。
- ・地域の良い部分を新たにたくさん見つけることができ、とても良い学びとなった。もっともっと地域をよく知りたい。
- ・自分を大きく成長させることができた一つがG明教でした。多面的な考えから一つの点を捉えていくことがものすごく大事だと気づき、多様な考えを持てるようになった。
- ・地域を学び、世界を学び、自分の将来がより明確になった。
- ・様々な講演を聴き、今後の進路や生活の仕方についてよく考えられるきっかけとなった。
- ・愛媛や松山といった地方にフォーカスを当てた活動ができ、自分を向上させることができた。
- ・愛媛について知らないことがたくさんあって、親も知らないことを知れ、それを紹介できて楽しかった。
- ・様々な方からお話を聞き、世界と地域のつながりなどを深く学ぶことができ、自分のためになったと思う。地域社会にあまり興味がなかったが、興味を持つきっかけとなった。
- ・前半の講義で地域のことについて学んだ上で、後半の課題研究で世界について考えることができ、持続可能な社会を理解することができた。
- ・地域の現状やこれからの社会について学ぶことができた。将来は地域の一員として役に立つ人になりたい。
- ・一つの課題について、フィールドワークを通じて深く研究、調査ができて楽しかった。
- ・グループで活動することで、意見交換や相手の考えを理解してより良いものにしようとする力がついたと思う。
- ・協力して物事を進めることが、こんなにも難しく楽しいことだとは思わなかった。
- ・自分で課題を見つけ、どうすれば解決できるか考える力が身についた。
- ・自分の知識が増えただけでなく、行動力や情報を整理する能力がついたように思う
- ・課題を見つけ、目的を持って調査する力は、将来役立つと思う。
- ・初めは関心が湧かないようなテーマでも、いざ講座に取り組んでみるとたくさんの学びがあり、とても良い経験になった。
- ・今まで自分が一度も触れたことのない分野に触れることができ、楽しかったし勉強になった。
- ・知る喜び、調べる楽しみ、理解してそれを発表するときの充実感があり、とても良い活動になった。
- ・コロナの関係もあり学校外での活動が少ないように思えた。もっと学校外での活動を行いたかった。
- ・印象に残る講話がたくさんあり嬉しかったですが、ぜひ講師の先生方に直接会ってお話を伺いたいと思う場面がたくさんあり残念でした。
- ・リモートでの講義は、先生との距離を感じ、あまり生きた話に思えなかった。
- ・ためになることも多くあったが、2時間の講義は集中力の限界が来るので、もっとコンパクトにすべきだと思った。
- ・講演の時間を短くして生徒同士で話し合ったりする時間を設けてもらいたい。
- ・学習時間外での準備が非常にしんどかった。
- ・もっと課題研究の時間が欲しかった。

<2年生>

- ・様々な方とコミュニケーションをとる機会があり、地域についてそして地域に携わる方について理解を深めることができた。地域活性化と一概に言うけれど、その中の考えは多岐にわたると実感した。
- ・課題研究を通して自分の進路を明確に決め、自分の興味のある分野を見つけることができた。ポスター制作によって情報をまとめる力もついたと思う。
- ・普段の高校生活では絶対できないような経験をたくさんすることができた。
- ・社会の現状について客観的な視点から見つめ直し、自分の将来について考えられるようになった。
- ・1年間自分の興味のある分野で課題研究をさせていただくことができて良かった。コロナの影響で予定していたことのいくつかを行うことができなくて残念だったが、自分の将来に繋がる学びができた。
- ・大学の先生から学ぶことは、とても深く興味深いものばかりで、普通の高校生活では学べないような貴重な体験となりました。資料やグラフを正しく読み取る力や、批判的な意識を持って問題に取り組むことの重要性、そして国際問題の理解と関心がより深まりました。
- ・より深く学んだことにより、自分たちの活動が地域活性化にどのように繋がるのか、また、そもそも地域活性化とは何なのか多角的な視点で物事を考えられるようになりました。
- ・答えのないテーマに取り組むため、様々な壁にぶつかることが多くあり、大変な思いをすることも多くあつ

たが、解決への道を少しずつ開けているように感じた。

- ・自ら計画を立てて実行する機会が今まであまりなかったため、この経験は良い経験となった。
- ・大学で扱うような高度な実験を体験することで、その学部への興味がさらに高まり、進路を考えていく上ですごく充実したものとなった。
- ・将来就きたい職業に関係した研究なので、意欲的に活動できた。GL生以外の生徒が、GL生の研究成果を見られる場があったら良いなと思った。
- ・TAの方から大学について聞ける機会があり、参考になった。
- ・プレゼン等をまとめる段階でパソコンを使いこなす必要を強く感じ、1年生の情報の時間の大切さを再認識した。
- ・ポスターセッションでは、1年生に自分の研究内容をしっかり伝えることができて良かった。
- ・GLコースの学習ができたことに強く感謝している。コロナ禍でも発表等のチャンスがあったことに感謝している。
- ・とても良い経験ができた。成果を発表する機会にも恵まれ、やる気を持って取り組めたと思う。「グローバル」という新しい視点を獲得ことができ世界が広がったので良かった。
- ・海外の方々とZoomを通して交流したり、150人以上にアンケートをしたりすることができ、自分にとって大きな刺激になった。
- ・動画作成を通してSDGsの推進に取り組むことができた。来年度の2年生にもぜひ積極的に取り組んでもらいたい。
- ・地元愛媛についてよく知り、考えるきっかけになった。GL事業で得た知識が勉強や日常生活にも生きてくると思う。しかし、コロナの影響で十分な活動ができなかったのが心残りです。
- ・課題研究は自分で何を研究してどのような情報が必要で、それをどのように生かしていくかまで決めて計画的に研究する必要があるため、GL以外の普段の生活から社会問題などに目を向けるきっかけになった。また、パソコンを使ってまとめる作業を行う機会が増えたので、情報処理能力も身についた。
- ・普段だったら経験できないことをたくさん経験させてもらった。地元の観光や活性化についての講座だが、地元の魅力を改めて認識することができたことが1番の収穫だったと思う。
- ・自分の興味のある分野について研究を進めることができ、より明確に課題を知り自分の行動を考えられるようになった。SDGsについて研究しているが課題が山積みである現状を知り、変えていかなければいけない私たちの行動が分かった。
- ・課題の提出が審査期間に重なることが多く、勉強に支障が生じた。調べ学習がほとんどであったため、レベルが低いものになっている。
- ・必ず勉強の負担になるので、本気でやりたいと思う人以外は選ばない方がよい。
- ・コロナの影響で大学の先生がなかなか指導に来られず、明確な目標を持ってないまま過ごしてしまった。

(2) 保護者

1 今の時点で、次のことがらについて、お子様は、どの程度興味がありますか。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	2.9%	64.6%	29.6%	2.9%	6.8%	61.4%	29.9%	1.9%
	2年GL	6.8%	69.9%	23.3%	0.0%				
	GL以外	3.1%	60.9%	33.9%	2.1%				
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	7.1%	48.3%	39.2%	5.4%	6.1%	54.7%	36.7%	2.6%
	2年GL	5.5%	71.2%	23.3%	0.0%				
	GL以外	3.1%	45.3%	49.5%	2.1%				
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	16.7%	56.3%	23.8%	3.3%	15.8%	52.1%	29.6%	2.6%
	2年GL	21.9%	61.6%	16.4%	0.0%				
	GL以外	7.3%	58.3%	31.8%	2.6%				
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	18.3%	60.0%	20.0%	1.7%	18.0%	57.9%	21.5%	2.6%
	2年GL	27.4%	64.4%	8.2%	0.0%				
	GL以外	13.0%	55.2%	28.6%	3.1%				
(5) 地域の魅力と課題	1年	7.1%	57.9%	31.7%	3.3%	11.9%	51.4%	34.7%	1.9%
	2年GL	17.8%	63.0%	17.8%	1.4%				
	GL以外	5.2%	56.3%	36.5%	2.1%				
(6) 地域の活性化	1年	5.4%	57.9%	33.8%	2.9%	11.6%	51.6%	33.9%	2.9%
	2年GL	16.4%	67.1%	16.4%	0.0%				
	GL以外	4.7%	51.6%	41.7%	2.1%				

2 今の時点で、お子様は、次の力がどの程度あると思いますか。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高校の魅力を説明する力	1年	11.6%	53.1%	31.1%	4.1%	9.3%	57.9%	31.2%	1.6%
	2年GL	26.0%	64.4%	9.6%	0.0%				
	GL以外	13.0%	56.8%	28.1%	2.1%				
(2) 愛媛県(地域)の魅力を発信する力	1年	5.0%	42.7%	45.6%	6.6%	5.1%	43.1%	46.3%	5.5%
	2年GL	8.2%	60.3%	31.5%	0.0%				
	GL以外	4.7%	48.7%	42.9%	3.7%				
(3) 地域の課題についての理解	1年	5.0%	32.8%	56.0%	6.2%	4.5%	42.8%	48.6%	4.2%
	2年GL	9.6%	49.3%	39.7%	1.4%				
	GL以外	4.7%	39.3%	51.3%	4.7%				
(4) グローバルな課題についての理解	1年	6.6%	46.1%	40.2%	7.1%	6.1%	46.9%	40.8%	6.1%
	2年GL	12.3%	58.9%	28.8%	0.0%				
	GL以外	5.2%	43.2%	46.4%	5.2%				
(5) 持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	6.7%	40.0%	47.1%	6.3%	4.8%	38.6%	49.8%	6.8%
	2年GL	11.0%	43.8%	45.2%	0.0%				
	GL以外	5.7%	43.8%	45.3%	5.2%				
(6) リーダーシップ・調整力	1年	9.5%	40.7%	42.7%	7.1%	9.6%	44.4%	37.0%	9.0%
	2年GL	13.7%	56.2%	27.4%	2.7%				
	GL以外	10.4%	38.5%	40.1%	10.9%				
(7) 世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	7.5%	30.3%	46.5%	15.8%	7.7%	36.3%	41.5%	14.5%
	2年GL	13.7%	46.6%	35.6%	4.1%				
	GL以外	2.6%	41.7%	45.3%	10.4%				
(8) 英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	5.0%	22.4%	47.7%	24.9%	4.8%	25.7%	47.6%	21.9%
	2年GL	13.7%	27.4%	47.9%	11.0%				
	GL以外	5.2%	23.4%	52.1%	19.3%				
(9) 異文化理解力	1年	12.4%	50.6%	30.7%	6.2%	11.9%	54.7%	28.0%	5.5%
	2年GL	17.8%	60.3%	20.5%	1.4%				
	GL以外	7.8%	56.8%	31.3%	4.2%				
(10) 批判的思考力	1年	12.1%	43.8%	35.4%	8.8%	13.5%	43.4%	37.3%	5.8%
	2年GL	17.8%	49.3%	27.4%	5.5%				
	GL以外	8.9%	47.9%	38.0%	5.2%				

3 お子様の現在や将来に関する次の問いに教えてください。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したいと考えている。	1年	8.8%	38.5%	47.7%	5.0%	8.4%	40.5%	46.9%	4.2%
	2年GL	16.4%	45.2%	37.0%	1.4%				
	GL以外	6.3%	30.7%	55.6%	7.4%				
(2) 地域の魅力を、国内や国外に発信したいと考えている。	1年	6.7%	36.4%	50.6%	6.3%	7.1%	31.2%	57.6%	4.2%
	2年GL	11.0%	53.4%	34.2%	1.4%				
	GL以外	4.2%	23.3%	64.6%	7.9%				
(3) 留学や海外の大学への進学をしたいと考えている。	1年	15.9%	22.2%	40.2%	21.8%	11.3%	24.1%	43.4%	21.2%
	2年GL	16.4%	38.4%	37.0%	8.2%				
	GL以外	7.4%	16.9%	47.1%	28.6%				
(4) 国や地域の担い手として、政策決定に関わりたいと考えている。	1年	2.9%	18.4%	56.5%	22.2%	5.1%	19.3%	54.3%	21.2%
	2年GL	5.5%	20.5%	65.8%	8.2%				
	GL以外	1.6%	15.3%	57.7%	25.4%				
(5) 地域と世界に関連する課題に関わりたいと考えている。	1年	7.1%	34.6%	46.3%	12.1%	7.4%	31.8%	49.5%	11.3%
	2年GL	8.2%	52.1%	37.0%	2.7%				
	GL以外	2.6%	27.5%	54.0%	15.9%				
(6) 地元で就職または起業してもらいたいと考えている。	1年	8.8%	31.4%	43.5%	16.3%	7.7%	28.9%	46.0%	17.4%
	2年GL	19.2%	19.2%	52.1%	9.6%				
	GL以外	9.5%	28.6%	48.1%	13.8%				
(7) どこに暮らしていても地元のために貢献してもらいたいと考えている。	1年	11.7%	58.3%	25.4%	4.6%	14.5%	50.5%	29.9%	5.1%
	2年GL	15.1%	58.9%	23.3%	2.7%				
	GL以外	13.8%	45.5%	34.4%	6.3%				
(8) お子様の英語力を高めたいと思う。	1年	57.1%	40.4%	2.1%	0.4%	59.2%	37.0%	3.2%	0.6%
	2年GL	57.5%	39.7%	2.7%	0.0%				
	GL以外	46.6%	46.0%	6.9%	0.5%				
(9) お子様には、将来、英語力は必要だと思う。	1年	62.9%	36.3%	0.4%	0.4%	66.2%	31.5%	2.3%	0.0%
	2年GL	71.2%	27.4%	1.4%	0.0%				
	GL以外	52.9%	41.3%	5.3%	0.5%				

4 グローカル明教での学習が、お子様の高校生活に与えた影響について、次の問いにお答えください。

項目	類型	保護者（ 2020 ）				保護者（ 2019 ）			
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) 進路選択や目標設定が明確になった。	1年	12.5%	41.5%	40.9%	5.1%	11.6%	41.0%	41.6%	5.8%
	2年GL	26.4%	52.8%	19.4%	1.4%				
(2) 他の教科の学習に役立った。	1年	10.8%	55.7%	29.0%	4.5%	7.7%	51.3%	36.5%	4.5%
	2年GL	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%				

自由記述より

- ・とても熱心に活動していてGLを希望して良かったと思います。
- ・教科書だけでは身に付かない知識や情報を得て将来に生かせる学習になったと思います。
- ・海外の経済や文化について詳しく調べることで、自分の考えや意見を明確にでき、大学進学や就職等に役立つ学習ができたのではないかと思います。
- ・大学のゼミを先取りできたような良い経験だと思います。部活や勉強など多忙な中、限られた時間で勉強以外の事を学ぶことは視野も広がり、いろいろなことを吸収する高校生には貴重なものだと思います。
- ・GL事業を通して進路選択や目標設定が明確になったことが本当に有難いです。
- ・興味のある分野をより広く深く学べることでできる事業だと思い、このようなチャンスを得ることができることに感謝しています。10年後の地球を救うのは今のこの生徒達なので、この学びをぜひ続けていてもらいたいと思います。
- ・異なる環境で体験したことは将来のことを考えるのに役立ったと思う。
- ・指導していただいた先生に良い意味でとても影響を受けています。3年生での学習も楽しみです。
- ・興味のある分野のことを、教科書ではなく現場のことを通して学ばせてもらって良かったと思う。
- ・通常の教科以外の学習にとっても力を入れられていることに驚きました。模擬国連に参加して、そのための準備や情報収集を頑張っていました。そのことは、本人にとって知識の幅が広がってとても良かったと思います。
- ・本来なら大学で受けるような講義を高校生で受けられる環境を非常に有難いと感じています。講義をきっかけに将来自分が何をしたいのか考えられるようになればと思います。
- ・本年度はリモートが多かったようで、話を聞くだけになってしまったのが残念でした。
- ・各分野について説明してくれるので親も視野が広がります。教科書では学べない社会に目を向けられるのは人間力アップにつながり良いと思います。
- ・グループ活動により、やる気のある子とない子の差が激しく、ない子と一緒にになると、やりたい事進めたい事も思うようにできなかつたらしいので、個別にさせてはどうかと思いました。
- ・勉強だけでなくこのような事業により、子ども達の視野が広がる気がします。そして、深く考察する力もついてくるように思います。大いに学んで欲しいと願っています。
- ・楽しく取り組めたようです。家庭でも学んだ事を話してくれました。保護者としても知らない事が多く興味深く聞くことができて楽しかったです。
- ・チーム数名でする作業でほぼ一人が仕上げるようになっており、中身に問題がある。
- ・愛媛の地域のいろいろな事を知る事ができ勉強になりました。
- ・授業外の学びが沢山あって、とても建設的だと思う。
- ・楽しんで学習していたように思います。地域と世界の関わりについて目を向けるための動機づけになっていました。
- ・通常の教科以外の学習にとっても力を入れられていて驚きました。人として知識の幅が広がり、奥行きがでることはとても良いことだと思います。
- ・家庭で楽しそうに活動内容を話してくれ、充実した時間を過ごせていたことがよく分かりました。
- ・G明教の内容をもっと保護者が知る機会があれば良いと思います。

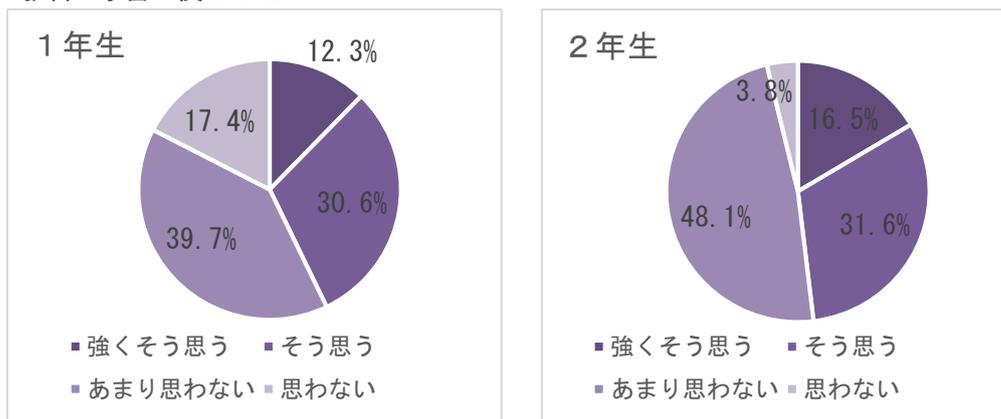
2 アンケート分析

(1) 他教科での学びや、将来とつながるプログラムとしての役割

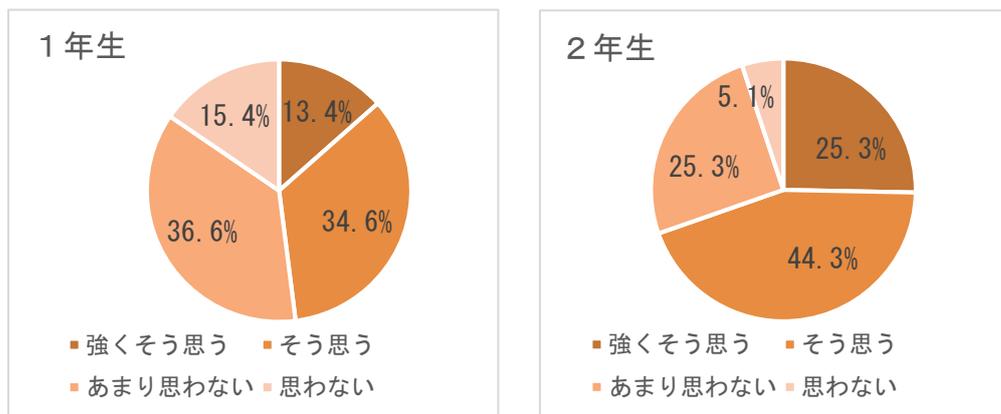
GL事業の実施により、1、2年生ともに、半数近くの生徒が本事業での学びが他の教科の学習に役立ったと答えている。(図1-①) また、進路選択や目標設定が明確になったと答える生徒が、1年生でおよそ半数、2年生では7割近くにのぼっている。(図1-②) このことから、本事業の経験が他教科の学習を促進したり、将来の進路を考えたりする上で一定の役割を果たしていることがわかる。

図1. アンケート「問5. グローカル明教の学習が高校生活に与えた影響」への生徒の回答（2020年度）

① 他の教科の学習に役立った



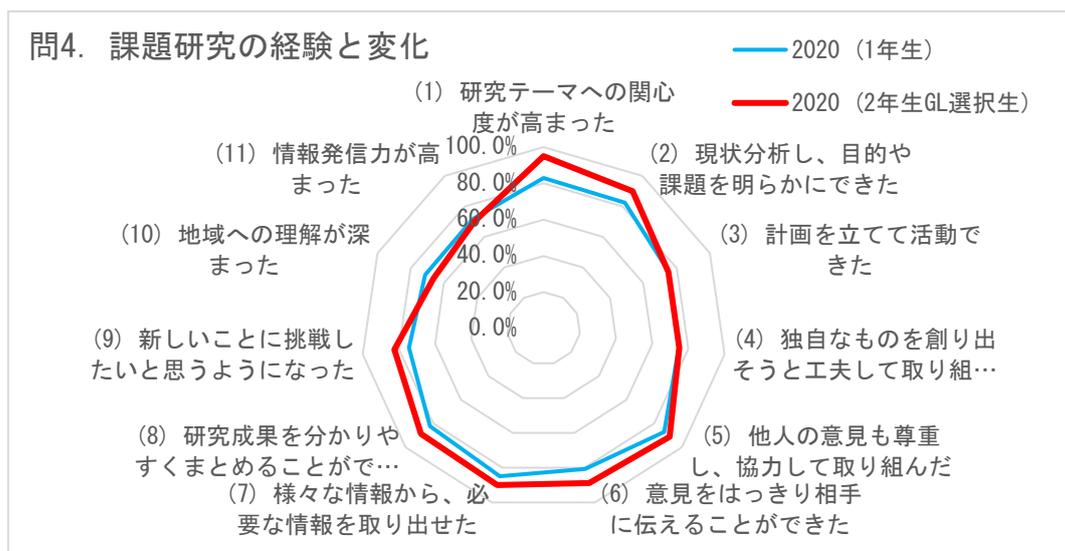
② 進路選択や目標設定が明確になった



(2) 研究活動を通じた情報分析力と表現力の獲得

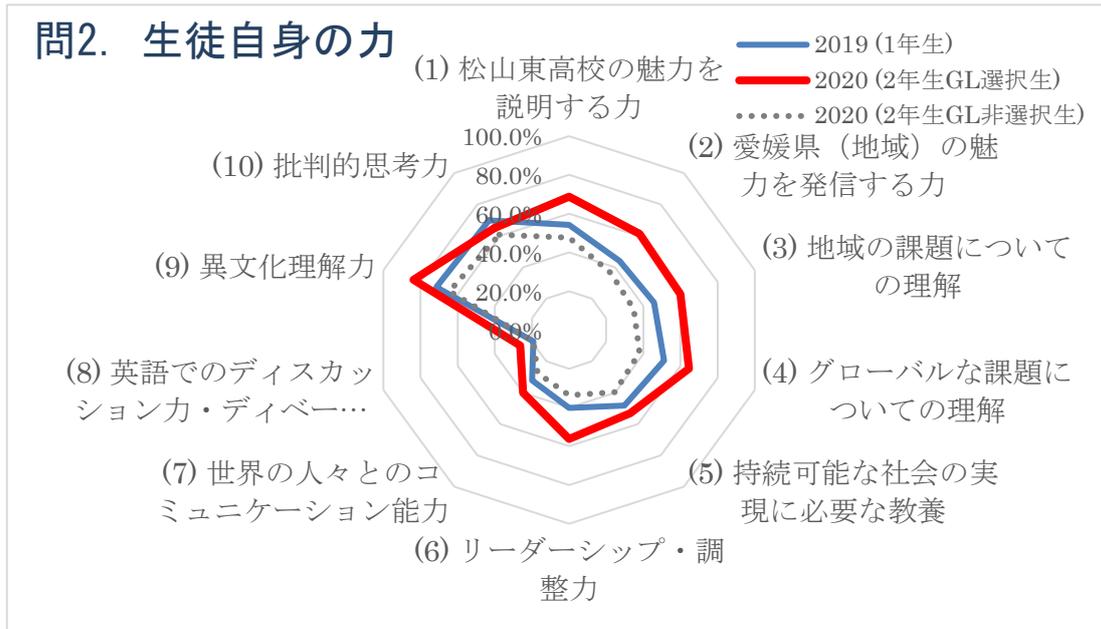
課題研究活動を通じた自らの経験や変化について（図2-1）、1年生、2年生いずれも研究テーマについての情報の収集や分析(1)(2)(7)、表現力や仲間との協働(5)(6)(8)について高い評価を下している。また「(9)新しいことに挑戦したいと思うようになった」と答える生徒が、1年生では74.5%、2年生では82.5%を占め、課題研究活動を通じて自ら課題を発見し、主体的に解決に取り組む姿勢が生まれているといえる。

図2-1. アンケート「問4. 課題研究での経験や変化について」への生徒の回答（2020年度）



他方で、生徒自身の力を問うと（図2-2）、1年生、2年生ともに、「(8)英語でのディスカッション力・ディベート力」「(7)世界の人々とのコミュニケーション能力」と答える割合は低く、語学力や異文化コミュニケーションに苦手な意識を持つ傾向が高いことが分かった。本年度の課題研究では、ネイティブの講師による授業（使用言語：英語）を開講したが、英語が得意な生徒は自信をつける一方で、自信がない生徒の底上げが課題となっている。来年度は英語の得意・不得意にかかわらず、英語をツールとして用いてコミュニケーションをする授業の設置、オンラインを活用した国際交流事業の対象拡大、CLIL授業の活用などの対応を予定している。

図2-2. アンケート「問2. 生徒自身の力について」への生徒の回答 (2020年度)



(3) 地域への関心と課題解決への意欲の向上

本事業では、1年次に全員が課題研究活動に参加し、2年次では希望者がGLコースを選択する体制をとっている。今年度の調査結果では、1年次2年次と継続的に本事業に参加した生徒の間で、地域への関心、課題解決に必要な力、そして将来的に地域に関わりたい意欲が高くなっている。

昨年度に引き続いて本事業に参加している2年生のGLコース選択生と彼らを含む昨年度の1年生全員へのアンケート結果を比較すると、その傾向が明らかになった(図2-3)。

図2-3が示すように、「(2)地域の魅力を国内外に発信したい」「(7)将来、どこに暮らしていても地元のために貢献したい」「(5)将来、地域と世界に関連する課題にかかわりたい」と答えた割合は、GL選択2年生ではいずれも1年次に比べて高くなっている。

さらに、「(6)将来、地元で就職または起業したい」の内訳を分析すると(図2-4)、「強くそう思う」と答えた割合が2年次では、1年次の2倍以上になっており、継続的な事業活動によって、地域で主体的な役割を果たす人材の育成という成果が出ているといえよう。

図2-3. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較

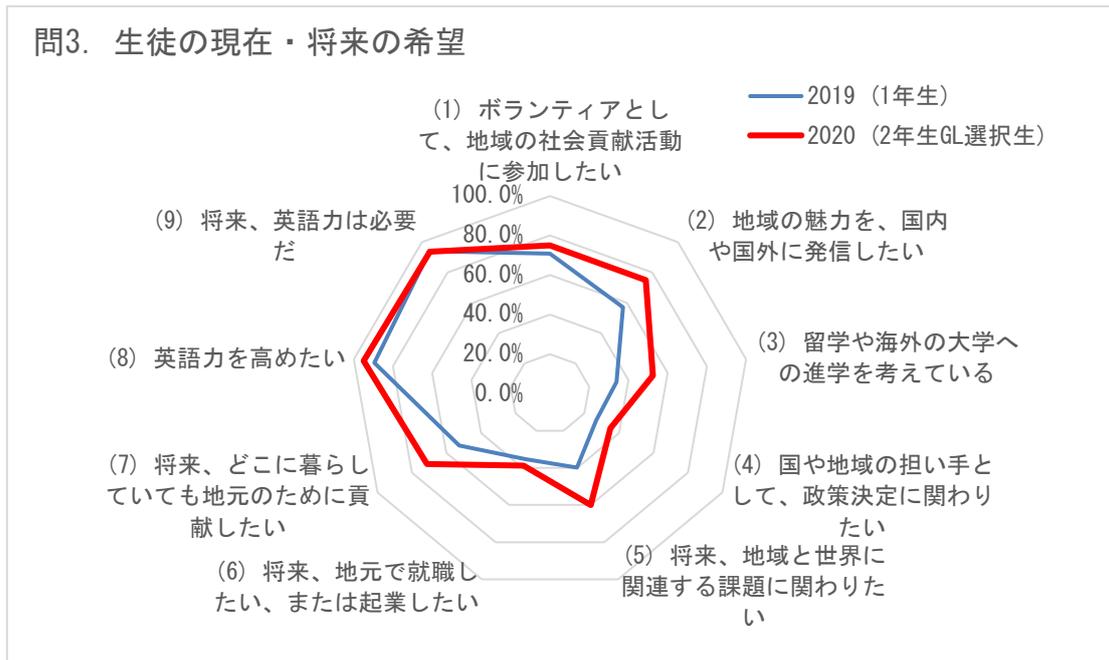
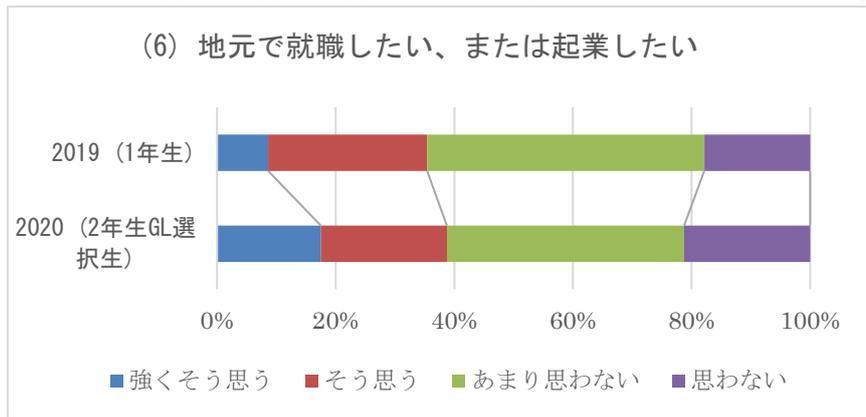


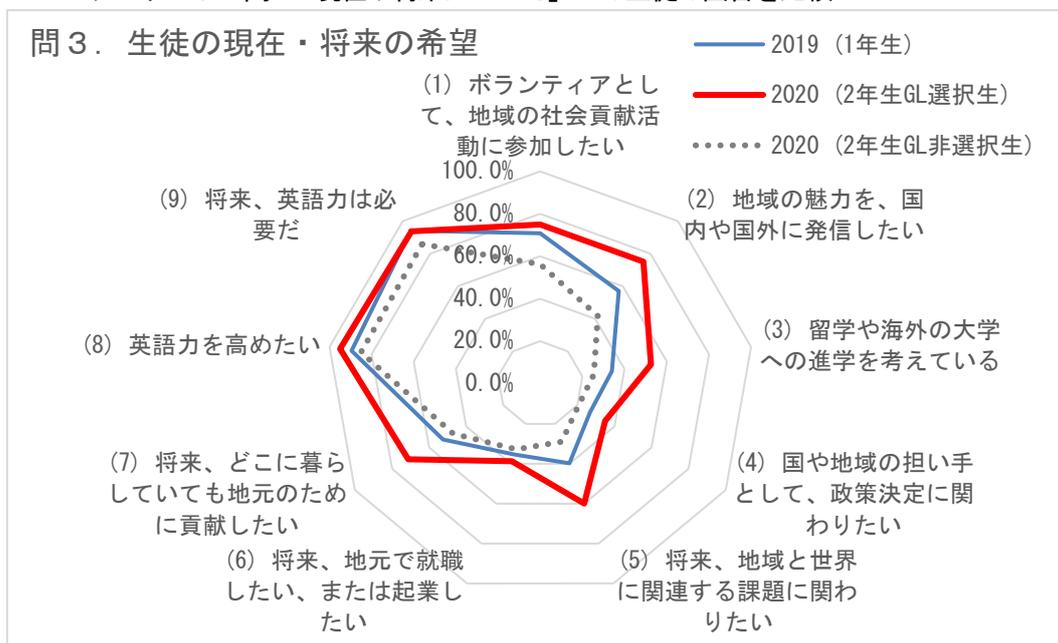
図2-4. アンケート「問3. 設問(6) 将来、地元で就職したい、または企業したい」生徒の回答を比較



このように、継続的に課題研究活動を行うことで、生徒の問題意識を向上させることができた。新たな課題は、1年次の課題研究終了後の生徒の意欲の継続である。今年度の2年生を、GL選択生とGL非選択生で比較したところ、GL非選択生は、いずれの質問項目でも、GL選択生と比べて肯定的評価を下す割合が低いことがわかった。また、1年次の回答(2019年度)と比較しても低くなっている。GL非選択生のなかには、もともと地域課題の解決など社会問題の解決にあまり関心のない生徒もいて、GLコースを選択しなかったケースもある。しかし2年次に課題研究に参加できなかった生徒が、地域やグローバルな課題への興味関心を失い、消極的になってしまったケースもあるように見受けられる。GL選択生はもともと地域課題の解決に高い意識をもち、GLコースの受講によりさらに意欲を高めることができるが、非選択生がGL事業の成果をいかに享受できるようにするかは、今後検討していかなくてはならない課題である。

こうした課題について、2年次から課題研究活動に参加しない生徒に対しても、他の活動への参加を促すなどの方法を検討していく。一案として、オンラインを活用して国際交流事業の参加対象者を広げる、などの方法が考えられる。

図2-3. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較



(4) 高校教員による課題研究の実践と生徒への効果

今年度の新たな取り組みは、高校教員による課題研究の指導である。これまでの課題研究は外部講師に指導をお願いしていたが、持続的な指導体制の確立と教員のスキルアップをめざして、今年度から高校教員が1年生の課題研究を指導している。

指導体制の変更に関わらず、各教員の工夫と協力により、生徒たちは意欲的に課題研究を行うことができた。これは、1年間の課題研究実施後の生徒の興味や関心から確認できる。以下は、今年度の1年生と昨年度の1年生のアンケート結果を比較したものである。

図3-1によると、課題研究活動を通じた成果として、今年度の1年生は、情報の収集・分析力(2)(7)、成果の表現力(4)(8)、協働による研究活動の実行力(5)(6)を挙げる割合が高く、昨年度の1年生と同程度の水準であった。さらに、地域への理解(10)や、新しいことに挑戦したいという意欲(9)は、昨年度の割合を上回る結果となっている。

また図3-2から、昨年度の1年生と比較して、今年度の1年生は、「(7)将来どこに暮らしていても地元のために貢献したい」「(4)国や地域の担い手として政策決定に関わりたい」「(5)将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい」と答える割合が高くなっており、地域の課題に対して意識を向ける姿勢が強まっている。このように、本校教員によって行われた課題研究は事業目的に照らして想定以上の成果を生み出しており、本事業終了後を見据えた課題研究の持続的な指導体制の構築が可能になってきている。

今後この体制を続けていくためには、課題研究の指導にともなう教員の負担等の課題が残る。教員への聞き取り・アンケートの結果を踏まえて、地域協働学習実施支援員及びカリキュラム等開発専門家とともに、対策を検討する予定である。

図3-1. アンケート「問4. 課題研究での経験や変化について」への生徒の回答を比較

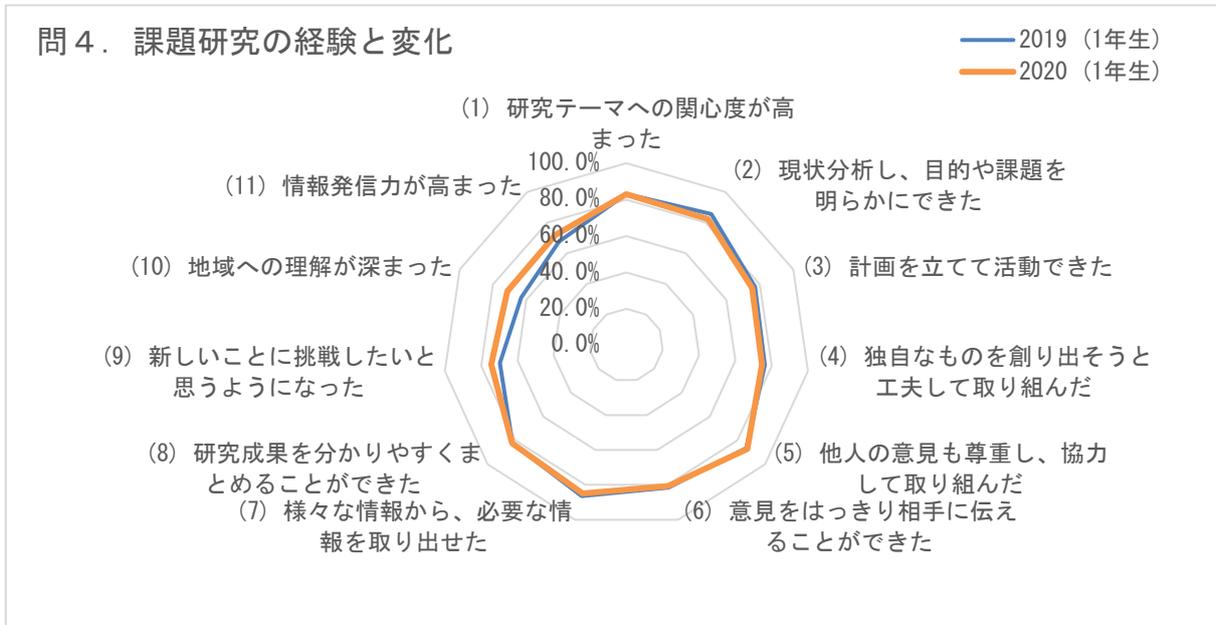
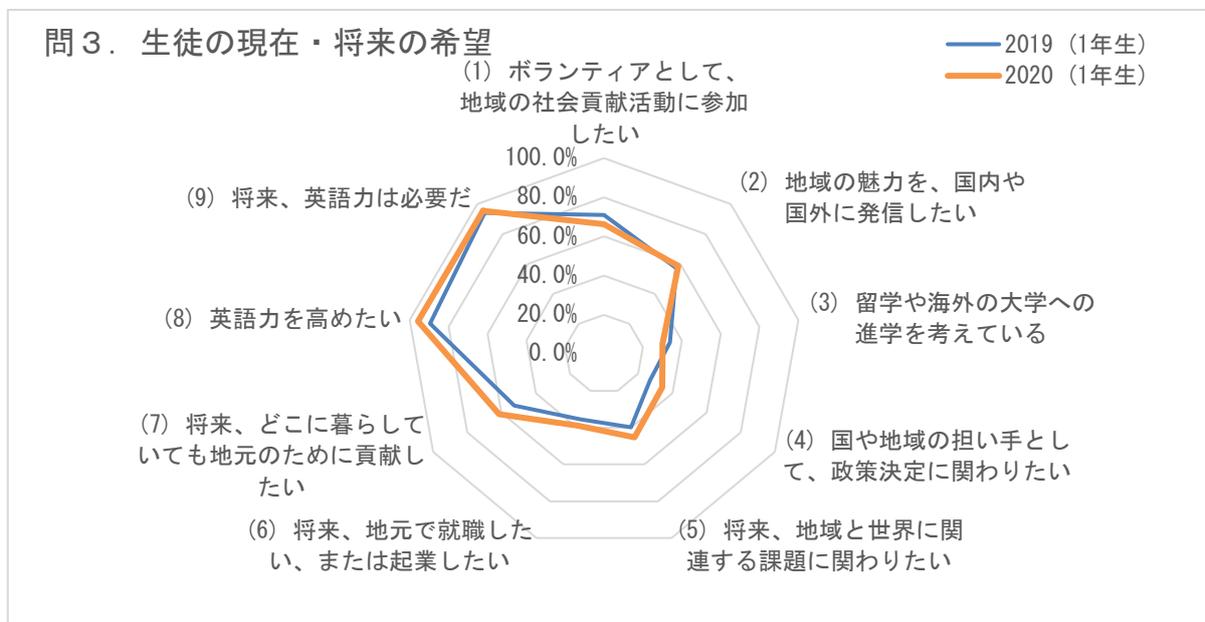


図3-2. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較



II 令和2年度のGL事業課の自己評価

1 グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】

(1) グローカル明教I

実施内容： 各種講演（1年生）、ワークショップ、県内企業フィールドワーク（代替講演）、海外フィールドワーク（代替交流）

自己評価： 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための休校措置や、フィールドワークの自粛措置のために、年度当初の計画からは大幅に変更して実施した。講演会は、体育館での一斉受講から各教室でのオンライン受講に変更した。当初は教員も生徒も戸惑いがあったが、自教室での受講のた

め、落ち着いた雰囲気のもとで受講ができたり、話し合いも活発に行えたり、机があることで講演の記録や自分の考えをまとめることが容易になったりするなど、オンラインならでの利点も見つけることができた。しかし、講師の先生方からの生徒の生の反応が見にくいために話しにくかったとの御意見や、生徒からの直接話を聞かせて欲しかったという要望もあり、来年度以降の検討事項としたい。また、昨年度まで行ってきた、坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力による秋山兄弟生誕地等の史跡でのフィールドワークは実施できなかった。そのため、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力についての理解への取組は、HR活動や各教科の取組の中で補充した。

昨年度から、松山市の協力を得て実施している「笑顔のまつやま まちかど講座」は、感染防止対策も兼ねて昨年度よりも多くの講座の実施を依頼した。松山市の全面的な協力により 15 講座が開講でき、少人数でのワークショップを実施することで生徒の興味・関心のさらなる喚起に繋げることができた。また、各種講演会を通して、グローバルが求められている背景やSDGsへの理解を深めることができ、地域と世界の持続的な発展のために何が必要であるのかを考えさせる時間を確保することができ、2学期以降の課題研究に向けての動機付けを行うとともに、生徒の興味・関心を高めることができた。

県内企業フィールドワーク、海外フィールドワークともに、年度当初の計画から変更し、実施できるように調整してきたが、感染拡大の影響でやむなく中止した。その代替として、県内企業フィールドワーク中に講演していただいていた内容を、オンラインで話していただいた。時間の関係で2社に講演をお願いしたが、急な変更にも関わらず好意的に取り組んでくださった。企業の取組や海外進出・海外での勤務及び高校生として取り組んでおくべき内容等、様々な情報を提供していただき、企業に対する生徒の理解度の向上に繋がった。一方、海外フィールドワークにおいても、訪問予定の学校や企業とオンラインでの交流を実施した。交流先との事前確認や、生徒の事前学習により、生徒にはある程度の効果があったものと考えられる。しかし、生徒の感想の多くに、現地を訪問したいというものがあり、来年度の実施について時期を含めて実現できるように検討していきたい。

各種講演やワークショップの実施後には、ワークシートの提出を行っているが、その自己評価において生徒はいずれにおいても高い評価をしている。(第3部 第3章 参照)

(2) グローカル明教Ⅱ 課題研究～グローバル課題の発見～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： 昨年度までは、課題研究の指導において、愛媛大学・松山大学の講師や元研究員、愛媛県立中央病院の医師、松山市役所の職員の方などから直接指導を受けていたが、本事業終了後の自走を考え、本校教職員による課題研究を実施した。当該学年である1年学年団の先生方に学年会を通じて、課題研究の指導方針や指導計画についてGL事業課より連絡を行い、協議を行った。また、地域協働学習実施支援員から「課題研究とは」「課題研究の進め方」等の指導をしていただいた。

まず、研究概要をもとに、各先生方が内容のプレゼンをした後、生徒の希望をとり講座編成を行った。その後、各先生方の創意工夫によって、様々な分野の課題研究が実践され、116枚のポスターにまとめられた。昨年度までは研究概要のみで選択していたが、講座内容を直接担当の先生方から聞くことができた本年度は、より課題意識を持った状態での生徒の講座選択に繋がった。また、各先生方が各教科の特性や得意な分野での研究テーマを設定した関係で、フィールドワークや外部講師の招聘など、各先生方の特徴のあらわれた課題研究が実践された。1年間のG明教の取組で最も印象に残っている活動として、半数近くの生徒が課題研究を選んでおり、生徒の満足度も高いものになっている。しかし、課題研究の時間不足や、ポスター作りのための情報機器の不足や情報活用のための講義不足などの課題も多く見つかри、来年度の課題研究に生かしていきたい。

(3) グローカル明教Ⅲ 課題研究～グローバル課題への取組～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： コンソーシアムの協力のもと、愛媛大学、松山大学の講師や元研究員、大分県立病院の医師、松山市役所の職員の方々から直接指導を受ける13講座を開講し、GLコース生80名が1年間をかけて課題研究に取り組んだ。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため当初はオンラインのみで受講となったが、感染が落ち着いた6月頃からは、対面授業やオンラインを併用しながら取り組んだ。フィールドワークの実施が難しい中、各講師の方々の創意工夫により、SG

H事業時と同様の広範囲で高水準の課題研究が実践された。また、昨年度は休校措置により実施できなかったポスター発表会を12月に実施することができ、研究をまとめるだけでなく、いかに分かりやすく聴衆に伝えるか、どのような評価をされるのかなど、体験しなければ分からないことを学び、貴重な体験の場となった。さらに、論文をまとめるために必要な考え方や文章の書き方なども、地域協働学習実施支援員の方や、松山市との連携講座による講演などを活用し実施することができた。しかし、フィールドワークの不足やオンラインでの講義の多さなど講座によっては、十分に指導していただく環境を整えることができなかった点は来年度への課題としたい。

今年度の課題であった生徒の希望に合った幅広い講座の開設とGLコース生の増員については、コンソーシアムの支援により新たに松山大学薬学部、松山市選挙管理委員会、いよぎん地域経済研究センター、松山市国際交流センターなどからの講師をお迎えしての講座を来年度に向けて開設でき、さらにGLコース生の人数を80名から97名に増員することができた。

なお、1・2年生ともに課題研究の事前指導として、地域協働学習実施支援員の嶋村氏より講演をしていただいているが、その目的と内容、評価についてここで報告する。

「課題研究」に関わる事前研修とその内容

本校で五年間実施したSGH事業を通して、生徒は「課題研究」にとまどいを感じ、うまくすすめられない生徒もみられた。そこで、本校ではSGHプロジェクト時から、生徒に対して「研究」、「論文執筆」及び「プレゼンテーション」に関する事前研修を行っている。

三つの研修の目的は、A) 「課題研究」に取り組む前の生徒の不安を解消し、B) 「課題研究」を実施する際の目的意識を高め、C) 「課題研究」の方法や注意点を共有することによって、課題研究を効果的に進めることである。

また、本校では様々な方面から外部講師に参画していただき、課題研究を進めている。外部講師が研究指導に集中するためには、生徒が「課題研究」を実施するために必要な基本的な知識や情報を習得・共有していることが不可欠である。

こういったSGH事業時に培われたノウハウが現在のプロジェクトの土台となっているので、事前研修が必要な理由、研修の内容及び生徒への研修の効果について、ここに報告する。

事前研修が必要な理由

はじめに、研修目的であるA)～C)が必要な理由を説明する。

- A) 「課題研究」に取り組む前の生徒の不安の解消
- ・「研究」や、その結果をまとめて提出する「ポスター」や「論文」がどういうものかわからないために、生徒は漠然と不安を抱いている。途中で挫折してしまうこともある。
 - ・「課題研究」は、全員が大学レベルの研究を行ったり、社会の課題を解決することが目的ではなく、自分の発見を他人に伝えられるかたちで発表することが目的であることを伝える。
- B) 「課題研究」を実施する際の目的意識を高める
- ・高校の他の授業で勉強することと「課題研究」は、何がどう違うのかを知っておくことで、“やらされている”という思いや、受け身な姿勢から脱却できる。
 - ・時間と手間がかかる「課題研究」によって何が得られるのかを理解することで、研究に対するモチベーションが上がる。生徒が理解することは、保護者の理解にもつながる。
- C) 「課題研究」の方法や注意点を共有する
- ・詳しい説明がないと、生徒は「研究」を調べ学習と、「論文」をレポートと混同してしまい、考察や結論が導き出せなくなって困惑する。その結果、インターネットで調べた情報をコピー&ペーストしただけの内容になってしまう。

事前研修の対象者

研修の種類	対象者
「研究」に関する研修	一年生全員
「プレゼンテーション」に関する研修	一年生全員
「論文執筆」に関する研修	二年生のうち、GLコース選択者

事前研修の内容

「研究」に関する研修の具体的な内容は、以下の通りである。

【研 修】 「課題研究のすすめかた」

【実施日】 令和2年7月9日

【対 象】 9月から課題研究が始まる全1年生360名

【講 師】 SGHプロジェクトの課題研究講師・現 地域協働学習実施支援員の嶋村美和氏

【内 容】以下の内容について具体例を挙げながら説明を行うとともに、「情報・資料検索」について詳しくまとめた案内資料を配布した。

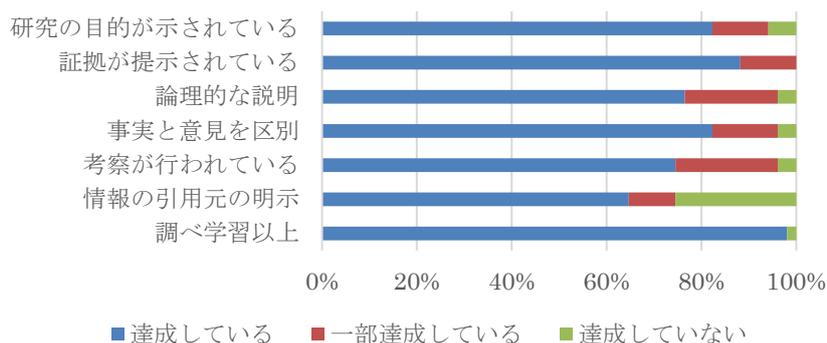
1. 研究とは
2. 課題研究で学ぶこと
3. 調べ学習と異なる点
4. 研究のながれ
5. 研究をまとめる時の注意点
6. つまづきやすいポイントについての補足（情報の検索や引用の方法等）

生徒への研修の効果

「研究」に関する研修「課題研究のすすめかた」の効果进行调查するため、本年度実施した中間発表会（令和2年12月17日実施）で発表があった51枚のポスターを対象に、達成度を調査した。達成度は、研修で学習した内容から7項目を抜粋して評価を行った。なお、対象とした51枚のポスターは2年生が作成したもので、1年生を対象にした上記の研修を、去年受講している。

調査の結果、51枚のポスターのうち、98%が調べ学習以上の内容を“達成している”ことがわかった。研修で学習した他の項目については、「情報の引用元の明示」を除く他の項目は75%以上が“達成していた”。この達成度は“一部達成されている”を含めると、90%以上となる。唯一達成度が低かった“情報の引用元の明示”については（“達成している”が64.7%）、自分のデータを使った発表であったため、参考文献や情報を使用しなかったポスターも含まれている。そのため、“情報の引用元の明示”に関する生徒の理解が低いとは言い切れないが、彼らが来年度に行う論文の執筆では、“情報の引用元の明示”に注意しながら指導を行う必要がある。調査の結果、研修の効果は十分あらわれているといえる。

中間発表会ポスターにおける達成度



2 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊ちゃんタイム】

実施内容： 松山東高校版内容言語統合型学習（E a s t C L I L）

自己評価： C L I L（Content and Language Integrated Learning：クリル）とは特定の教科またはテーマを学習することを通し、内容の理解と目標言語（本校の場合は英語）の運用能力、学習能力、思考力の向上を同時に進める学習方法である。教科内容を題材とした言語活動を行うことで英語のスキルを高めること、また、生徒の協同学習で学習意欲を相互に高めることが期待されている。そこで英語以外の教材を本校でアレンジし、研究指定校初年度から松山東高校版内容言語統合型学習（E a s t C L I L）として実施している。内容の理解、言語の理解、+αの学習を目指し、教科担当教員・A L T（英語指導助手）・英語科教員の3人で担当している。1年生は全クラスで学期に1回ずつ実施、一つの内容につき2時間をかけた。まず、1時間目は、実施教科の内容に応じた教材を用いて英語科教員とA L Tが授業を行い、語彙や学習目標の確認をし、2時間目で、実験やグループワーク、プレゼンテーションを行うとともに、教科担当教員とA L Tによって更に専門的な学習へと導いた。授業初回は緊張している生徒も、自らが調べたり発表を行うなど主体となり活動することで、非常に活気ある授業となっている。本校の入学選考の面接では、E a s t C L I Lを受けてみたいという中学生の声をよく聞くようになった。最終的には、これらを特別な授業と位置付けず、生徒が学んだ学習内容を英語科の授業にフレキシブルに取り込んでいけるようにしたい。そのために、英語科の授業では、要約、リテリング、ディスカッション、即興ディベートなどの様々な言語活動を随時取り入れることで、論理的に自分の考えを伝えたり、人の意見に反論する練習を行ったりしている。こうした表現活動は、課題研究に取り組む資質の向上につながっている。

3 学校環境のグローバル化

実施内容： SGH部（部活動）の活用、海外留学の促進と留学生の受入れ、海外高校生との交流促進

自己評価： 本年度も昨年度までと同様に学校のグローバル化に努めた。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外修学旅行・短期語学研修・海外フィールドワークの全てが中止となり、毎年参加しているトビタテ！留学 JAPAN や、えひめ高校生ハワイ派遣事業も相次いで中止となった。海外へ飛び立つことはできなかったが、オンラインを用いて代替事業を計画し、画面越しにたくさんの国の人々との交流を実現することができた。日常の国際交流では、タイからの短期留学生を受け入れることができ、様々な学校行事を含めて本校生徒と同じ活動をさせた。留学生の学習に対する意欲は高く、その積極的な取組が学校全体に好影響を与えている。また、駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」ではリトアニア共和国のゲディミナス・バルブオリス駐日特命全権大使が来校し、講義や生徒とのディスカッションを通じて、グローバルな視点の育成に努めることができた。SGH部の活動もオンラインをうまく用いながら例年以上に活発に行われ、松山市や愛媛県と連携した取り組みにも自主的に参加し、部員各自の国際性が一層高まっている。生徒主導による毎月の「市内高校生交流会・勉強会」では、毎回SDGsの課題を取り上げ、その課題に精通した講師を招き、答えのない課題に対して市内の高校生たちがじっくり考える良い機会となっている。5回目の中四国高校生会議は、オンラインでの開催ではあったが、100名近い高校生が自分たちの地域を大事に思う気持ちを再認識し、地方の課題と地域創生について考え、意見を交換することで刺激を与えあうことができた。国内・海外を問わず、本校の取組を他校や地域へ発信・普及することに努めることができた。

4 SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

(1) 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

実施内容： 松山市総合政策部企画戦略課や危機管理課、タウンミーティング課との連携

自己評価： 本年度も松山市総合政策部企画戦略課と連携し、新たに「未来のふる里産業人養成講座」を3回、4名の講師からの講演会を実施することができた。本校卒業生でショートショート作家として活躍されている田丸雅智氏や元日本経済新聞記者で編集委員末村篤氏などより講演をいただき、将来地域に貢献できる人材に必要な知識や考え方を教えていただいた。また、課題研究では昨年度に引き続き松山市総合政策部危機管理課の芝大輔氏を講師としてお招きして防災講座を開設し、松山市が掲げる全世代型防災教育の一翼を担うことができた。さらに、主権者教育の一環として取り組んできた、松山市選挙管理委員会との連携をさらに発展させ、来年度2年生GLコースの課題研究の一つとして新たな講座を開講できるようになった。また、昨年度に引き続きタウンミーティング課と連携し、「まつやままちかど講座」を15講座実施し、生徒の地域理解と課題発見の貴重な機会となっている。来年度で本事業は最終年度となるが、来年度以降もさらに連携を深めていき、本校とともに松山市にとっても魅力のある取組になるように改善していきたい。

(2) 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

実施内容： 課題研究での愛媛大学・松山大学との連携、企業訪問代替講演や海外FW代替交流での産業界との連携、行政機関との連携

自己評価： 以下のように、今年度も多くの企業、大学の関係者の方々に御協力をいただき、愛媛の力が結集された。愛媛型産官学連携体制が構築されている。

連携先	学年	連携内容	期待される効果
いよぎん（伊予銀行）地域経済研究センター	1年 2年	県内企業の紹介及び助言 市内高校生会議講師	学校では交渉が困難な企業との連携促進、SDGsへの理解向上
三浦工業株式会社 株式会社アテックス	1年 2年	県内及び海外フィールドワーク代替講演、課題研究	県内及び海外フィールドワーク代替講演への協力、関連資料の提供、生徒の県内企業とグローバル化への理解の深化

愛媛大学	1年 2年 3年	課題研究の指導、 海外大学・高校の 紹介	課題研究指導の充実、発表の場の提供 学校では交渉が困難な海外大学・高校と の連携支援
松山大学	1年 2年	課題研究の指導	課題研究指導の充実

(3) 他校との連携

実施内容： 松山市内の高校生と連携する「松山市内高校生交流会」の実施、「中四国高校生会議」の実施

自己評価： 昨年度からSGH部が中心となり、定期的に「松山市内高校生交流会」を実施したが、本年度もコロナ禍の中、オンライン等も利用しながら計8回の会議を実施することができた。参加校、参加人数とも昨年に比べて増加し、主にSDGsのそれぞれの取組に対する勉強会や意見交換・調査などを行った。他校との交流機会の少ない生徒にとって、貴重な交流の場になっているだけでなく、企画運営から生徒が参加している活動になっており、貴重な体験の場になっている。また、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養うことや、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める機会となっており、今後も継続できるように学校間の連携をさらに深めていきたい。

また、過去4回実施してきた「中四国高校生会議」を本年度も実施することができた。コロナ禍で本年度は宿泊なしのオンラインでの2日間の開催となった。残念ながら県外からの参加はなかったが、県内から95名の参加があり、松山市のまちづくり推進課の矢野幸平氏よりの講演や共通のテーマについてのディスカッションやディベートを行い、お互いに刺激を受けることができた有意義な2日間であった。来年度は、実施時期や実施方法をさらに検討し、県内外から多くの生徒が参加できるように改善していきたい。

Ⅲ 次年度以降への課題

第1部に次年度以降の課題及び改善点として掲載